

広報 ほうじょう

町の人口
 (昭和60年6月30日)
 前月比較
 男 3,996 (+2)
 女 4,394 (+2)
 計 8,390 (+4)
 世帯数 2,729 (-7)

七月は 「同和問題啓発強調月間」 です

「同和問題の早急な解決は行政の責務であると同時に、国民ひとりひとりの課題である」といい続けられ、十数年経過しましたが、現在なお差別現象があとをたちません。県、及び市町村では同和問題の解決を、すべての県民が自らの課題としてとらえ、差別をしない、許さない意識の徹底を図るため、

昭和五十六年度から、毎年七月一日〜三十一日を「同和問題啓発強調月間」と定め積極的に啓発活動を推進してきました。方城町では、本年度の同和問題啓発強調月間の行事計画を、次のとおり計画致しました。町民みなさんの多数参加と、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



県道田川～直方線バイパスにて

昭和60年度同和問題啓発強調月間行事計画

行事及び行事内容	街頭啓発	講演会	行政職員研修	就学前教育研修会	啓発、広報	地区懇談会	社会教育関係団体	その他
実施月日	7月1日 午前7時 午後5時	7月7日 午前10時	7月26日 午後5時 15分	7月13日	期間中	5月8日 9月まで	5月 9月	5月 9月
場所	町内 12ヶ所	町民 体育館	公民館	公民館	公民館 隣保館	各常会の 集会所及 住宅隣組	公民館	企業内 公民館
講師	長以上 行政(係)	織井青吾 氏	安蘇龍生 氏	井手川 恭子氏	全町民	行政職員 教師	講師 専従	講師 専従
対象者	全町民	町同推協	行政職員	就学前教 育推進協	委員 教育	行政	行政	失所 5カ所 商工 日立 セル 新日本 物縫製 など
実施主体	総務課	町同推協	総務課	就学前教 育推進協	委員 教育	行政	行政	同和室

地区懇談会 隣組単位で実施

同和对策審議会から同和对策特別措置法、地域改善特別措置法と法律名は変わりましたが、この法律の主旨に基づき、町と致しましては十五周年にわたり、部落差別をなくすためにあらゆる施策を



第4回中央講座 講師 堀内 忠氏

体となって啓発活動に取り組みました。学習内容は「田川の部落の形成史」について学び、正しい歴史を学ぶことにより、部落差別が江戸幕府の政策によって作られたものであり、根拠のないものである、ということを確認していただきたいと思います。

今回の地域こん談会は、五月から8月まで3ヶ月間にわたって、町内隣組(一三七)単位で実施しています。常会単位では出席率が悪く意見がたよる、隣組単位だと少人数なので意見が発表しやすい、などの理由から隣組単位で計画致しました。



前列左から2番目が光井さん

財務事務所長が表彰

税務課 光井 英一さん

田川財務事務所において、当町役場税務課勤務の光井英一さんが、昭和五十九年度福岡県納税表彰を受賞しました。

この表彰は、県税の納付または納入に積極的に協力し、多年にわたり税務事務に従事した者に贈られる感謝状です。

光井さんは昭和四十九年から十年間、町・県税の業務を担当し、その業績により今回の表彰の運びとなった次第です。

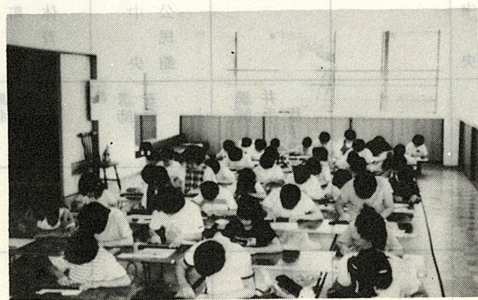
この日、田川市郡から納税功労者、優良納税貯蓄組合、市町村職

第70回全国商工会珠算検定試験 二十六名が合格

六月九日、全国商工会主催による第七〇回珠算能力検定試験が全国一斉に行われましたが、方城町商工会でも七〇名が受験、八幡町商工会の大広間で、子どもたちははじく算盤の音がパチパチと大きく鳴り響きました。

合格者は次のとおりです。
〔二級〕
仲島果実、中山佳代

〔三級〕
原亜弥、高橋尚子、田中淳、富永郁子
〔四級〕
山口陽子、村上廣子、水上忍、上田絹代、山崎由美、中山雄介
〔五級〕
松島利光、矢野珠美、辻村真奈美、富永さおり
〔六級〕
仲村友美、稲富礼、山内毅



方城商工会にて

〔七級〕
藤光りつ子、辻生まり子、清水暁音、佐貫純子、辻村利江
〔八級〕
松島良太、佃富士美

領収書や契約書と印紙税



員から五名が晴れの表彰を、財務事務所長から受賞しました。

防災訓練見学

糸島郡二丈町

五月二十四日、糸島郡二丈町の福吉漁港で、福岡県主催による防災訓練が行われ、つゆ期を目前にひかえ、当町消防団幹部(勝木一郎消防団長他八名)は見学に出かけました。

無線通信、日赤社員による負傷者救助訓練、その他いろいろの訓練が行われましたが、何と云っても架設のビル(福吉ビル)での火災被難者の救出訓練は、見ごたえがありました。消防署員のロープ一本による、数通りの救出方法を目前にして、千数百人の見学者は、



消防署職員への信頼感をいっそう深めました。

中国残留日本人孤児問題に 県民の理解をお願いします

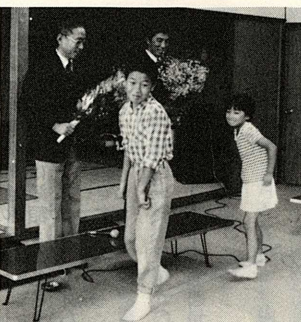
「中国残留日本人孤児」という言葉を存じですか。

この方達は、先の大戦の終結前後の混乱期に、中国東北地区(旧満州)等において肉親と離別し、長い間、異国の地にあつて計りしれない苦勞を余儀なくされた人達です。

昭和五十六年三月以来、日中両

国政府の合意に基づき、中国残留日本人孤児による訪日調査が始まり、今回(昭和五十九年十二月)で、第六回目を迎えました。戦後四十年、孤児の平均年齢は四十歳を越え、肉親捜しの決め手となる養父母や、日本の肉親の老令化は進み、今回の訪日結果が示しているように九十名中、判明者三十六

マラソン人生を 君原 水上選手が語る



六月三十日(日)方城町体育振興協会創立二十周年記念行事の一環として、記念講演が行われました。

講師はメキシコオリンピック銀メダリスト君原健二さん(四四)と、モントリオールオリンピックマラソン選手、地元方城町出身の水上則安さん(三七)二人は、「スポーツに学ぶ」のテーマで、二時間にわたって講演を行いました。

名、判明率四十パーセントと、過去の訪日調査のなかで最も低い率となりました。中国政府によりますと、二十人以上の人達が祖国日本を一度も訪ずれることなく、今日に到っているともいわれています。このようなどことから考えて、この十月に中国を訪問した渡辺前厚相と、呉学

まず体協会長の永岡巖さんが、炭坑閉山で経済的にも、心身とも困窮を窮めていた二〇年前、スポーツを通じて町の浮揚、快気を求めたいという目的で体協が生まれた、今日は君原選手と水上選手の話も聞いて、今後の人生に少しでも役立ててほしい、とあいさつ。

君原さんは、中学生の時は成績はあまりよくなく、不良グループ仲間がいたが、走ることで不良にならずにすんだ。友人の勧めで駅伝クラブに入ったのをきっかけに、走ることにのめりこんだ。しかしそのため、青春を犠牲にしていたのではないかと(デイト、旅行)とも思ったが、大切なことは目標以外は捨てる勇気こそ必要だと思ふ。

私が走ったことで気がついたことは、何事でもとにかくやってみなすに決まっています。謙中国外相との会談で「六十一年までに一応の決着をつける」との合意が成立しています。県としましても、日頃から関係機関の協力により、県民のみならずこの問題に対するご理解を広くお願いし、一日も早く、解決に向けて努力しています。

肉親捜しや、この問題に対するご意見、要望、情報などありましたら次の窓口までご連絡ください。(相談窓口) 福岡県民生部援護課 電話(〇九二)六五一・一一一 又は役場福祉課窓口